

申請者氏名 日病 太郎
 申請者所属施設名 日病薬病院
 薬剤管理指導症例数 50例 (精神疾患種数 6)

精神疾患患者への薬剤管理指導実績の要約

(症例番号を付し、性別・年齢・精神疾患名、治療の内容、指導内容などを要約して下さい)

症例	年齢・性別	32歳・男性
	精神疾患名	統合失調症
	治療内容	薬物治療(抗精神病薬)、心理教育、精神療法、 その他()
	入院期間	1年5ヶ月
	薬剤管理指導業務 内容の要約	薬剤に対して、自分の薬にだけ毒が入っている等の訴えがあり、頻繁に 薬剤の変更を求めるため、主治医と共に薬剤の効果・副作用について説 明を行い、処方調整を行った結果、服薬の継続が可能となった症例。オ ランザピンでは“朝眠くて起きられない”また“やる気が出ない”など と訴え、クエチアピンへの変更を求めるが、過去のクエチアピン処方時 には脱抑制が生じており、体重増加・血糖値上昇等をモニターしながら オランザピン単剤での治療を目標に用量調整に係った。
症例	年齢・性別	67歳・男性
	精神疾患名	双極Ⅰ型気分障害
	治療内容	薬物治療(気分安定薬・抗うつ薬)、心理教育、精神療法、 その他()
	入院期間	4ヶ月
	薬剤管理指導業務 内容の要約	うつ病相で入院。睡眠相の後退により深夜3時頃に就寝し、翌日の午前 中はベッドの中という状態。入院直前に塩酸トリヘキシフェニジルを急 激に減量したため、入院時CK値2,000IU/lと高値であったが、発熱、 発汗は無かった。しかし、悪性症候群も念頭に薬原性錐体外路症状をモ

		ニターしながら塩酸トリヘキシフェニジルを中止した。また、炭酸リチウムの服用によるリチウム中毒のモニターを血中濃度、初期症状から行い、脱水やNSAIDs 使用上の注意についての情報を提供した。さらに、抗うつ薬は少量の追加で躁転してしまうため、前駆症状について検討し早期介入を行った。
症例	年齢・性別	29歳・男性
	精神疾患名	統合失調症
	治療内容	薬物治療（抗不安薬・睡眠薬）、心理教育、精神療法、 その他（）
	入院期間	2ヶ月
	薬剤管理指導業務 内容の要約	入院時、保護室にてベンゾジアゼピン系薬による依存、脱抑制、前向性健忘症等について症状をチェックし、依存 (-)、脱抑制 (+)、前向性健忘症 (-)。ベゲタミン錠-A+ベンザリン錠10mg が処方されており、DAPeq:23mg。さらに呂律が廻らず、本人もベゲタミン-A 錠の中止を要望していた。就寝前の薬剤をゾテピン錠に変更することを主治医に提案し、脱抑制の改善がみられた症例。ベンゾジアゼピン系薬等による奇異反応についての指導を行ない、服用に際しては注意が必要であるとの心理教育を行った。